

3 学習指導案様式例

各学校では、この様式例を参考にしながら、授業の目的や公開する対象者に合わせて項目構成や記述内容等を検討し学習指導案を作成してください。その際、児童の実態や研究課題に応じて、項目や内容を付け加える等、一層の工夫を加えることが望まれます。

なお、「4 学習指導案の各項目の解説」において、各項目の内容や留意点を詳しく解説しています。学習指導案についての理解を深める資料として活用してください。

※「特別の教科 道徳」の学習指導案様式については、「道徳教育の進め方 京都式ハンドブック」（平成 30 年 3 月改訂版）を参考にしてください。



様式例 1

(1) 〔基本型〕

京都府総合教育センターが初任者・新規採用者研修のために作成している「学校の教育力の向上を目指して－教職の手引き－」令和2年度版に基づいて作成しています。

〇〇科 学習指導案

学校名

指導教員名

指導者名（* T 1 . . .）

（* T 2、T 3）※複数指導の場合

初任者・新規採用者研修における学習指導案作成の場合は指導教員名も明記します。

*印鑑省略可

1 対象 第〇学年〇組 〇〇名

2 日時 令和〇年〇月〇日 〇曜日 第〇校時（〇：〇～〇：〇）

3 場所 〇〇教室、〇〇場、〇〇実習室等

4 単元（題材）名・教材名

教科によっては、「単元名」を「題材名」とします。

5 単元（題材）について

（簡潔に記述する。児童生徒の実態についても、単元（題材）の目標に関連させ、本単元（題材）での学習課題が明確になるようにする）

単元、小単元、題材等、教科によって学習内容のまとまりの捉え方が異なります。そのまとまりを踏まえて目標を設定します。

6 単元（題材）の目標

（単元全体の目標を育成する資質・能力の三つの柱に沿って設定する。）

7 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文末は「～している。」「～できる。」等	文末は「～している。」等	文末は「～しようとしている。」等

- 児童がどのような学習状況であれば、単元目標が達成できたと判断するのか、その拠り所となる規準を、年間計画に基づいて観点ごとに簡潔に記述する。
- 単元（題材）の評価規準については、国立教育政策研究所発行の『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』を参照し、適切に設定する。

8 指導と評価の計画（全〇時間）

次	時	ねらい・学習活動	評価規準 【評価の観点】 ＜評価方法＞
一	1 （本時）	○学習のねらいと具体的な学習活動について記述する。 単元指導計画表の時間の区切り（横線）については、各教科の特性に応じて、「次」ではなく、「時」ごとにまとめることも可能です。	○単元の評価規準を具体化し、評価規準と評価の観点を指導過程に即して記述する。 ○単元の評価規準と同様に各校の年間計画に基づいて記述する。 ○指導に生かす評価の機会については「◇」を、児童全体の評価を総括の資料にするために記録に残す評価の機会については「◆」を付けて示し、各観点の評価の機会を精選して記述する。

- 9 本時の目標（この時間でどのような資質・能力をどのような学習活動を通して身に付けさせるのかを児童の立場で簡潔に記述する。その際、単元（題材）の目標との関連を明確にして、「指導と評価の計画」の該当する時間との整合性にも留意する。）

10 本時の展開（○／○）

本時○時間目／単元全体○時間中

（本時の目標を達成するための授業展開計画を示す。児童の学習活動と指導の手立てが具体的にイメージできるように記述する。）

過程	学習活動	学習形態	指導上の留意点	評価規準 【評価の観点】 （評価方法）
導入 ○ 分	○具体的な学習活動について、児童の立場から記述する。		○指導者がどのようなねらいでどのような指導を行うのか、指導のポイントを記述する。	
	めあて（本時の目標を達成するための学習課題を児童向けの言葉で提示する。）			
展開 ○ 分	過程には時間配分も記入し、見通しをもって指導します。 一斉、個別、ペア、グループ等の学習形態を記述します。 児童が主体的に学習活動に向かうためには、指導者の説明を一方的に聞くだけでなく、多様な学習集団を活用した指導形態を取り入れることが必要です。		○本時の目標を達成するための具体的な手段や方法、指導の工夫点等が具体的に想起できるように記述する。 ○児童の実態や予想される児童の反応を想定して個に応じた具体的な手立てを記述する。 ○教育的支援や配慮を必要とする児童への配慮事項等を記述する。 ○学習形態等の工夫や少人数授業の利点を生かした指導の工夫について記述する。 ○複数指導の場合は、各教員の役割や指導内容の分担がはっきりと分かるように区分して記述する。 ○保健衛生、事故防止、安全管理、準備・片付け等にも触れる。 ○使用する教材・教具等を学習活動に沿って記述する。	おおむね満足できると判断される状況 ○本時の目標に照らし学習活動に即して評価規準を確認し、評価の観点と評価方法を具体的に記述する。 ○指導と評価の計画の評価規準との整合性に留意する。 十分満足できると判断される状況 ○評価規準に照らして学習の実現状況の程度から、その高まりや深まりをもっていと判断される状況を想定して記述する。 努力を要する状況への手立て ○その時間の学習活動において評価規準を達成することができそうにない児童に対して指導者がその時間内にどのような手立てを講じるのかを記述する。
まとめ ○ 分	学習指導案を作成する段階で、教材や教具を記述しておくことで、計画的に準備をしたり、授業当日に必要なものを確実に揃えたりすることができます。			

様式例 2

(2) 〔特別支援学校・特別支援学級 (各教科等を合わせた指導)〕

各教科等を合わせた指導の学習指導案作成に当たっては、本学習指導案ハンドブック P1～P18 や、特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編 (小学部・中学部) の「各教科等を合わせた指導」を参照の上、御活用ください。

生活単元学習 学習指導案

初任者・新規採用者研修における学習指導案作成の場合は指導教員名も明記します。

学校名
指導教員名
指導者名 (T 1)
(T 2)

*印鑑省略可

- 1 対象 第○学年○組 ○○名
- 2 日時 令和○年○月○日 ○曜日 第○校時 (○:○～○:○)
- 3 場所 ○○教室、○○場、○○実習室等
- 4 単元名
- 5 単元について
(単元に関わる児童の実態についても明記する。)
- 6 単元の目標
(単元全体の目標を育成する資質・能力の三つの柱に沿って設定する。)

目標	合わせている各教科等
特別支援学校学習指導要領解説各教科等編 (小学部・中学部) を参考に目標を立てます。	例 生活科 [役割][生命・自然] 国語科 [聞くこと・話すこと] 自立活動 [読むこと] [人間関係の形成] [コミュニケーション]

7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文末は「～している。」 「～できる。」等	文末は「～している。」等	文末は「～しようとしている。」等

○児童がどのような学習状況であれば、単元目標が達成できたと判断するのか、その拠り所となる規準を、年間計画に基づいて観点ごとに簡潔に記述する。

○単元 (題材) の評価規準については、国立教育政策研究所発行の『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料を参照し、適切に設定する。

8 指導と評価の計画 (全○時間)

次	時	ねらい・学習活動	評価規準【評価の観点】 (評価方法)
一	1		
	2 (本時)		
二	3		

学習のねらい、学習の過程及び学習する内容が明確になるよう、児童が実際に行う学習活動に即した具体的な表現にします。

各教科等の相互の関連を図りながら系統的、発展的に学習を展開し評価を進める必要があります。単元を通してどの学習活動で何をどのように評価するのかを計画します。

9 本時の目標

(この時間でどのような資質・能力をどのような学習活動を通して身に付けさせるのかを児童の立場で簡潔に記述する。その際、単元の目標との関連を明確にして、「指導と評価の計画」の該当する時間との整合性にも留意する。)

<全体>

<個別>

10 本時の展開 (○/○)

本時○時間目/単元全体○時間中

(本時の目標を達成するための授業展開計画を示す。児童の学習活動と指導の手立てが具体的にイメージできるように記述する。)

過程	ねらい・学習活動	手立て及び指導上の留意点		評価規準 【評価の観点】 〈評価方法〉
		T 1	T 2	
導入 ○分	めあて（本時の目標を達成するための学習課題を児童向けの言葉で提示する。）			
展開 ○分	「評価」の欄を別に設けることも考えられますが、指導と評価を一体化するために、「本時の展開」中に評価を示しています。適切な評価のためには、「8 指導と評価の計画」の観点か、「本時の展開」のどこに位置付くのかを明確にしておくことが大切です。表の中で学習活動と評価を横並びに示すことで、どの場面において、どの観点をどのように評価するのかが分かりやすくなります。 児童の実態に幅がある場合は、個別に記述することも考えられます。			
まとめ ○分	T 1：中心指導としての動き方を記入します。 T 2：サブ指導としての動き方を記入します。 中心指導者に集中させる、学習しやすい雰囲気づくり、個々の児童の活動への支援等役割があります。そのため、事前に指導者間で丁寧な打ち合わせを行うことが大切です。			

11 配置図

(教師の立ち位置や動線・提示する教材の配置等個々の児童が本時の目標を達成できるよう、必要な環境設定について図示します。)

12 準備物・板書計画等

(必要に応じて、項を設ける場合があります。)